

水田たより 10月号

令和4年10月3日

JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

令和4年産水稻の状況

8月31日時点の検査状況は右表のとおりです。コシヒカリの1等米比率が低くなっています。

本年産では、カメムシ対策

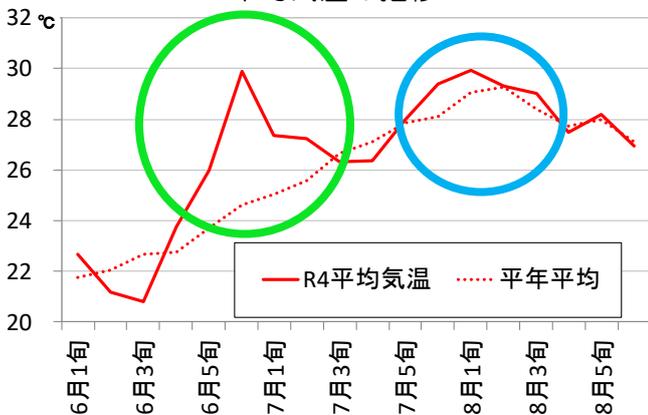
(畦畔の除草と出穂期の薬剤散布)が広範囲で実施され、斑点米被害が昨年に比べ減少したとの声もきかれました。

一方、コシヒカリでは近年白未熟粒の発生が多くなっています。今年は7月下旬から8月上旬の平均気温が平年より高めに推移しており、出穂期～登熟期がこの高温に重なったため、白未熟粒が発生したと考えられます。また、6月下旬の高温・多日照によって前半の生育が過剰となり、後半の稲体で窒素栄養が不足したことも要因として挙げられます。7月上旬中頃までが高温で経過し、その後の登熟期間中も高温が見込まれる場合は、やや後半に重点をおいた施肥管理が必要となります。葉色と生育状況をよく見て、適切な穂肥・耐暑肥を心がけましょう。

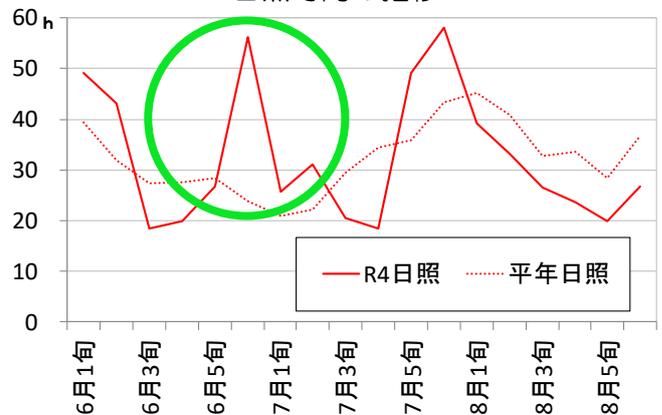
令和4年産米 検査状況 (桑名管内・8月31日時点) (単位:俵)

品種名	1等		2等		3等	
	数量	等級比率	数量	等級比率	数量	等級比率
あきたこまち	3,352.0	69.6%	1,292.5	26.8%	174.5	3.6%
なついろ	9,888.0	88.0%	1,268.5	11.3%	80.0	0.7%
コシヒカリ	4,269.0	22.7%	14,062.0	74.8%	457.5	2.4%

平均気温の推移



日照時間の推移



令和4年産麦類の収量

令和4年産大麦の収量は昨年並みでしたが、小麦は令和3年産と比べると、単収が多くなりました。大雪の影響により、播種が適期に行なえず、生育にも遅れがでている状況でしたが、適切な土壌改良資材の投入、明渠の設置や適期の赤カビ病防除により単収が増加したと考えられます。来年度産の麦類も、しっかりとほ場準備を行い、更なる収量の増加を目指しましょう！！

小麦単収 (kg/10a)

品種	地域	R4年産	R3年産
さとのそら	桑名市・木曾岬町	328	286
あやひかり	いなべ市・東員町	298	282

麦類播種前の湿害対策

■チゼル深耕体系の紹介！！

麦類は湿害に弱いいため、ほ場の排水対策が大変重要になります。麦類の湿害対策には、チゼル深耕体系が有効です。チゼル深耕体系とは、①チゼルプラウを用い、稲作後に耕起を行い、②縦軸駆動ハローにより土壌表面を砕土・整地・鎮圧し、③小明渠浅耕播種機を用いて畝立て播種する方法です。チゼルプラウは、ロータリーに比べ荒く土を砕くので、土壌を乾きやすくします。また、縦軸駆動ハローは、ローラーで鎮圧するので、播種時に設置する小明渠が崩れにくくなります。



チゼルプラウ

■明渠を設置しましょう！！

稲作後のほ場では、田起こしを行った後、額縁明渠を設置しましょう。この時、明渠の隅を排水溝にしっかりと接続してください。また、排水溝も水が流れやすいように手入れを行いましょう。播種前には、ほ場内に 5m~10m 間隔 で明渠を設置しましょう。このとき、ほ場内の明渠をしっかりと額縁明渠に接続してください。明渠を設置することで、雨水が土壌中に停滞せず明渠に流れるため排水性が向上し、ほ場が早く乾き播種作業がスムーズに行えます。このように湿害対策を行い、更なる麦類の収量アップを目指しましょう。

麦播種前のpH 矯正

麦類の適正pHは 6.0~6.5 ですが、麦類の連作ほ場ではpHが著しく低く、生育障害を起こすほ場が多く見られます。pH 矯正には、石灰資材が有効で、複数の種類があります。それぞれ資材によって施用後から播種が推奨される期間が異なるため注意して施用しましょう。

各石灰資材の特徴

資材名	含有アルカリ分	pH矯正の速度	播種推奨期間
消石灰	70%	標準	<u>14日</u>
苦土石灰	53%	やや緩効性	<u>7日</u>
石灰窒素	50%	やや緩効性	<u>7~10日</u>
かきから	48%	緩効性	<u>7日</u>



資材名	特徴
消石灰	アルカリ分を多く含んでおり、施肥量が少なく済みます。
苦土石灰	麦の生長に必要なマグネシウムを含む土壌改良材で、土中のマグネシウムが少なくなると麦の光合成が十分に行われなくなります。また、過剰施肥による害が少ないという特徴があります。
石灰窒素	pH矯正効果に加え、緩効性肥料としての窒素施用効果が期待できます。
かきから	かきの殻を原料とする土壌改良材になります。また、過剰害の心配もほとんどありません。植物の生育に必要な微量元素も含んでおり、土壌条件の改善が見込めます。